

★漢方あれこれ★

◆張 仲景◆

しょうかんろん

傷寒論を著し医方の祖といわれた。

太田 順康

2世紀中頃の人で、若い頃に医術を学び療をし、薬方の使い方が巧みであった。後漢の靈帝の時代（168年～189年）に長沙（湖南省の省都）の太守に任じられました。



〔紙が発明されるまで、本はこんな風に木や竹にに書かれて綴られて巻物になっていました〕

当時疫病が流行して死者が多数でていました。

仲景の一族は200余人いましたが、建安元年（196年）から10年も経たぬうちに2/3が亡くなり、その内7割が傷寒（急性熱性病）に罹って亡くなった。

それを痛ましく思った仲景は古訓を探し、衆方を集め、素問（そもん）、八十一難（なん）、陰陽（いんよう）大論（たいろん）、胎産（たいさん）薬録（やくろく）、平脈（へいみやく）弁証（べんしょう）等の古医書を撰用して「傷寒（しょうかん）雑病論（ざつびょうろん）十六卷」を著しました。後に熱性病の傷寒の治法の「傷寒論」と慢性病の雑病の治法の「金匱（きんぎ）要略（ようりやく）」に別れて現代まで伝えられています。私が最初に勉強し、今でも毎日のように呼んでいる漢方書がこの「傷寒論」と「金匱要略」です。

「傷寒論」では傷寒の進み具合

によって、太陽（たいよう）、

少陽（しょうよう）、陽明（やうめい）、

太陰（たいいん）、少陰（しょういん）、厥

の六期に分けて、各時期に於ける病状やそれに応じた薬物療法ややってはいけない治療法が詳しく書かれています。風邪薬で有名な葛根湯は太陽病の代表薬として書かれています。またこの後半には、不可発汗篇（発汗してはいけない）とか不可下偏（下剤をかけてはいけない）などの記述があります。

私の漢方薬の選定は大体この本の記述によって行っています。2000年前の本が今でも活用できることは素敵なことですね。

(つづく)



春禪洞

すこやか教室 山歩き

◎10:30 出発です。

雨の多かった4月と比べ、5月は雨が少なく突然真夏の暑さとなりました。体調を崩さないように、少しずつ身体を動かして慣らしましょう。

5日(金) 12日(金) 19日(金) 26日(金)

↑雨天の時は、中止です。

§漢方

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範、岐阜県漢方研究会会長、岐阜薬科大学「漢方学」講師)

今月の漢方相談日

8日(月) 22日(月) 29日(月)

太田先生の

「くらしの
薬草と漢方薬」

新日本法規出版
B5版・総頁382頁
価格 3,300円＋税



ハーブ・民間薬・生薬

§6月の休診日

11日(木) 12日(金)

12日のすこやか教室は行いません。

§健診のお知らせ

今年の健診日程は、下記のとおりです。

健診受診券、保険証ご持参の上、お越しください。

米特定健康診査 (6月1日～10月31日)

対象者：

1940(S15)年11月1日～1976(S51)年3月31日生まれの岐阜市国民健康保険に加入している人

自己負担額：800円

米ぎふ・すこやか健康診査 (9月1日から11月30日)

対象者：

受診時点で、後期高齢者医療制度に加入している人
自己負担額：500円